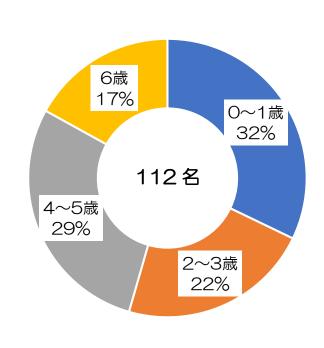
2018年度 医療的ケア児実数調査結果

1. 就学前児童

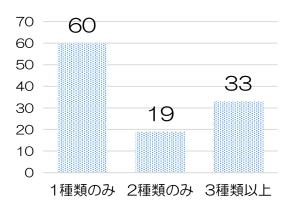
医療的ケア 112名 (下記重複あり)

侵襲的人工呼吸器	22	19.6%		
非侵襲的人工呼吸器	11	9.8%		
酸素投与	51	45.5%		
気管切開	29	25.9%		
喀痰吸引(口腔•鼻腔)	19	17%		
喀痰吸引(気管カニューレ)	27	24.1%		
経管栄養 (胃瘻)	22	19.6%		
経管栄養 (腸瘻)	3	2.7%		
経管栄養 (経鼻)	31	27.7%		
中心静脈栄養	3	2.7%		
導尿	7	6.3%		
人工肛門 (ストマ)	5	4.5%		
腹膜透析	2	1.8%		
※血糖測定・管理、インスリン注射等除く				



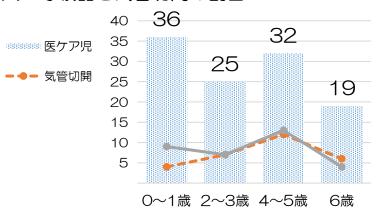
※血糖測定・管理、インスリン注射等除く

医療的ケアの数



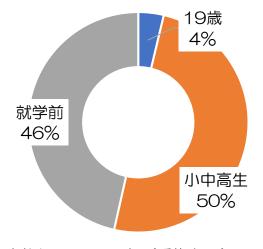
O~1 歳	22	8	6
2~3歳	10	5	10
4~5歳	15	4	13
6歳	13	2	4

人工呼吸器と気管切開の割合



内)気管切開	4	7	12	0
内)人工呼吸器	9	7	13	4
侵襲的	3	5	11	3
非侵襲的	6	2	2	1

2. 0~19歳



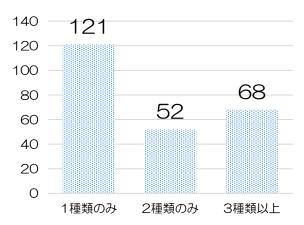
	就学前	小中高生	19 歳
医療的ケア児数	112	120	9

医療的ケア 214名 (重複あり)

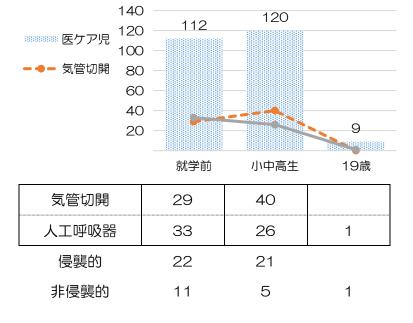
	就学	前児童	小口	高生	1:	9 歳	-	全体
侵襲的人工呼吸器	22	19.6%	21	17.5%			43	17.8%
非侵襲的人工呼吸器	11	9.8%	5	4.2%	1	11.1%	17	7.1%
酸素投与	51	45.5%	24	20%	2	22.2%	77	32%
気管切開	29	25.9%	40	33.3%			69	28.6%
喀痰吸引(口腔•鼻腔)	19	17%	43	35.8%	2	22.2%	64	26.6%
喀痰吸引(気管カニューレ)	27	24.1%	39	32.5%			66	27.4%
経管栄養(胃瘻)	22	19.6%	44	36.7%	1	11.1%	67	27.8%
経管栄養(腸瘻)	3	2.7%					3	1.2%
経管栄養(経鼻)	31	27.7%	17	14.2%	1	11.1%	49	20.3%
中心静脈栄養	3	2.7%					3	1.2%
導尿	7	6.3%	30	25.0%	2	22.2%	39	16.2%
人工肛門(ストマ)	5	4.5%					5	2.1%
腹膜透析	2	1.8%					2	0.8%

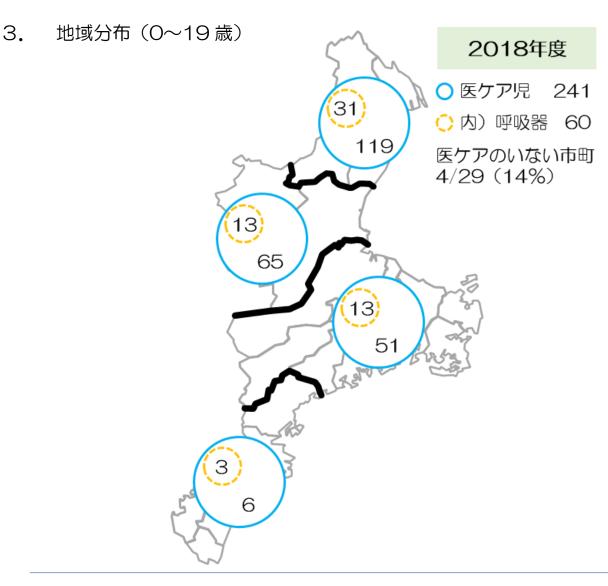
[※]血糖測定・管理、インスリン注射等除く

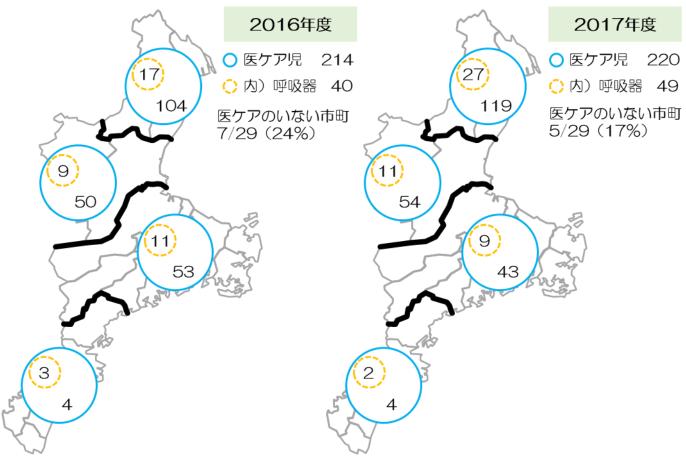
医療的ケアの数



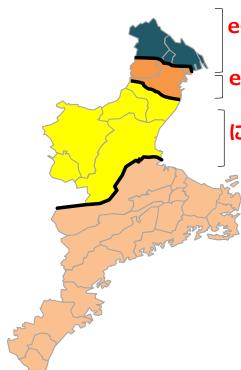
人工呼吸器と気管切開の割合







医療的ケア児(者)地域連携ネットワークの状況



e-ケアネットそういん 平成27年度~

(桑名市・いなべ市・東員町・木曽岬町)

(代表-小児科医、事務局-障がい者総合相談支援センターそういん)

e-ケアネットよっかいち _{平成24年度}~

(四日市市、菰野町、川越町、朝日町)

(代表一三重県立看護大学教授、事務局一三重県立特別支援学校北勢きらら学園)

にじいろネット _{平成29年度}~

(津市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市)

(世話人一三重病院MSW、事務局一三重大学医学部附属病院小児TCC)

※平成28年度 支援拠点構築事業実施

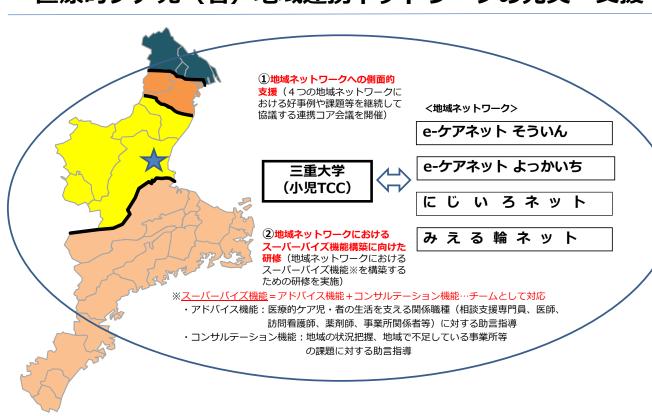
みえる輪ネット _{平成28年度}~

(松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、熊野市、明和町、度会町、玉城町、 大紀町、多気町、大台町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町)

(発起人一松阪市長・小児科医、世話人一松阪市子ども発達総合支援センター所長事務局一済生会明和病院なでしこ)

※平成29年度 支援拠点構築事業実施

医療的ケア児(者)地域連携ネットワークの充実・支援



医療的ケア児・者の地域ネットワークにおける スーパーバイズ機能構築に向けた研修



【スーパーバイズ機能】

各地域ネットワーク単位で組織するスーパーバイズチームが担う機能

薬剤師 医師•歯科医師 訪問看護師 (訪問実施) セラピスト 福祉事業所関係者 (事業所、療育センター 各1) (ST/OT/PT) スーパーバイザー チームとは 教育機関 (チーム構成例) 医療ソーシャルワーカー (特別支援学校必須) 相談支援専門員 行政 保健師 (障がい福祉課、子育て関連課各1) (指定事業所必須)

(1)アドバイス機能

各地域において医療的ケア児者の生活を支える関係職種(医師、訪問看護師、薬剤師、福祉事業所関係者、相談支援専門員等)に対する助言指導を行う。

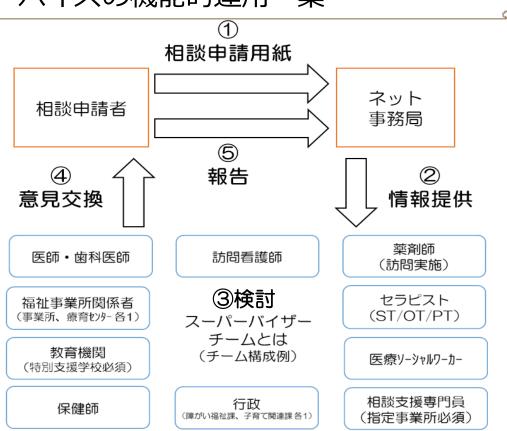
(2)コンサルテーション機能

医療的ケア児者の地域における受け皿の拡充を目指し、地域診断及び社会資源の開発(地域の状況 把握及び障害福祉サービス事業所等の創出)に向けた助言指導を行う。

※三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター作成「2019年度スーパーパイズ機能構築研修 医療的ケア児をとりまく現況と支援について」より

スーパーバイズの機能的運用案





※三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター作成「2019年度スーパーパイズ機能構築研修 医療的ケア児をとりまく現況と支援について」より

三重県医師会 小児在宅連絡協議会

三重県医師会(2017.9~)

郡市	ペア
医師会	
①桑名	小児・成人診療科
②いなべ	小児・小児
③四日市	小児・成人診療科
④鈴鹿市	小児・成人診療科
⑤亀山	小児・成人診療科
⑥津	小児・成人診療科
⑦久居一志	小児・成人診療科
⑧松阪地区	小児・成人診療科
9伊勢地区	小児・成人診療科
⑩志摩	小児・成人診療科
⑪紀北	小児・成人診療科
迎紀南	小児・成人診療科
13伊賀	小児・成人診療科
⑭名賀	小児・成人診療科

【郡市医師会の役割】

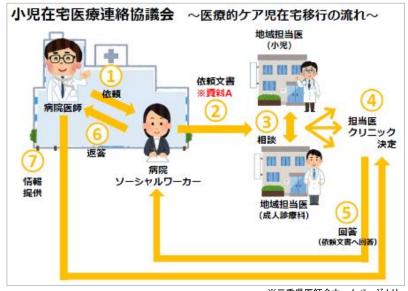
- ①在宅症例の相談窓口
 - かかりつけ医
 - ・ 支援医の調整
 - 訪問/外来対応
- ②症例を通して
 - 地域課題抽出
 - 連携体制支援

【県医師会の役割】

- ①年定期開催
 - 課題共有
 - 問題解決議論
- ②人材育成研修会企画
- ③日本医師会への提言

※三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター作成「三重県における医 療的ケア児の実数調査報告」より

医療的ケア児在宅移行の流れ



※三重県医師会ホームページより



※三重県医師会ホームページより

連絡協議会を通じた在宅への運用実績: 4件(平成30年8月~令和元年8月)